自然の力

LI校　高等部一年一組
杉本　真瑠

「今年の夏はバーモント州に行くよ。」
母が家族みんなに行った。バーモント州ってスキー場で有名だから冬に行くんじゃないのかな、と思いながら私は荷物をリュックに詰めはじめた。車で食べるおやつを用意したり、どんな服を着ていくかを考えるのはとっても楽しい。いろんな州に行ったことがあるけどバーモント州は行ったことがないので私はなんだかワクワクしてきた。
家のすぐ近くにあるフェリー乗り場からコネチカット州へと渡る。ここで一つアクシデントが起きる。フェリーの中の席を取れるように私と父だけ先にフェリーに乗ることになったのだが、私の兄弟と母が乗っている車は乗れなくてつぎのフェリーに乗ることになってしまった。仕方がないので私たちは先にコネチカット州の街をぶらぶらすることにし

た。近くにあるカフェで甘いドリンクを買ってもらったのを覚えている。次のフェリーが着いたので合流したあと、チェックインまでまだ時間があったので州立公園へ寄り、昼ご飯を食べる。家からもってきたおにぎりと豚キムチだ。豚キムチは外で食べたことがなかったけど、自然に囲まれて食べるご飯は格別だった。

泊まる場所は窓からスキー場とリフトがみえる素敵なコテージだ。チェックインをして一晩過ごしたあと、スキーリフトにのってハイキングに行くことになった。私はスキーをしたことがなくてリフトにのること自体が初めてだったのでとても新鮮な体験だ。少し怖かったけど無事にのることができると、どんどん景色がみえてくる。空は飲み込まれるくらい広く、私たちが泊まっているコテージが小さくみえた。目を凝らしてみると遠くにある山がかすかに移る。でも足場がないので足は宙ぶらりんの状態で下をみると自分がどれ

だけ高いところまで登っているかが分かって怖くなった。なのでなるべく前を向いて、きれいな景色に集中することにする。リフトが頂上までいくと、今までみたこともないような絶景が待ち構えていた。どこまでもつづく山の間をくぐり抜ける静かな川。その上を綿あめみたいなふわふわの雲が覆っている。本当に素晴らしい景色だ。ハイキングで山を下りるときも壮大な自然に癒された。下りているときは疲れてくるけど来てよかったなと思った。

次の日はコテージに泊まる人が使える共有の室内プールに遊びに行った。プールはひとが全くいなくて貸し切り状態だったのでとっても嬉しかった。しかも、そのプールにはジャグジーがあって、まるで温泉のように温かい。昔プール教室で夏期講習をしたことがあり、そこでクロールを習ったので早速泳いでみることにした。クロールの最後に顔を上げるときに鼻に水が入って嫌になったけど、だ

んだんとコツがつかめてくる。少し泳げる妹にも教えてあげると最後は妹もクロールで泳げるようになった。私はクロールで何往復もすることができて、達成感を抱いた。指先がしわしわになるほど遊んだら、ジャグジーで休むことにした。ブクブクと次々に泡がでてきて楽しい。とてもポカポカになった。

最後の日、窓の外を見るとなんと山が消えていた。山がすっぽりと霧に隠されている。最初の日にみた景色と全然違ってまるで別の場所みたいだ。チェックアウトをすますと展望台みたいなのを登ることができる山をハイクした。残念ながら修繕中だったので山を登るだけだったけど、てっぺんで食べるおやつは最高だ。山を下りると次は近くのフリーマーケットに寄ることになった。そこではコップやペンチ、アクセサリー、なんと動物の頭蓋骨まで売られている。賑わっていてとても興味深い場所だった。その後には恐竜の足跡がある公園へ帰り道に寄った。でも印象に残

っているのは肝心の足跡ではなく、そこの川の景色。とても大きい川で人も少なく、隠れ名所だなと思った。

帰りのフェリーに乗るとちょうど日没の時間だったのでとても美しい日の入りを海の上から見ることができた。今年の旅行は自然の力を感じることができて癒された。今度は冬にバーモント州に行ってみたい。

努力の大切さ

L工校　中等部　一年
劉　恵里那

私は中学校に入ってからは楽器のトロンボーンを始めました。

しかし、始めたばかりの六年生の時はずっとオンライン授業だったので、トロンボーンの練習もオンラインで、何をしているのかよくわからないまま一年が終わってしまいました。

でも七年生になると、対面授業になって学校に行けるようになったので、本格的なトロンボーンの練習が始まりました。本格的なトロンボーンをやるのは初めてだったので、最初は全然出来ませんでした。楽譜が読めなかったり、スライドの位置がわからなかったりしました。でも、一番大変だったのは、高い音がなかなか出せなかった事でした。

何度もあきらめそうになったけれど、バンドの先生の三スターロペスが何度も教えてく

れたり、バンド仲間が助けてくれたりしたので、私は頑張って練習することが出来ました。

今、八年生になった私が去年を振り返ってみたら、自分でもよく頑張ったと思います。あまり上手くトロンボーンをふけなかった私からいつのまにかコンサートにも出れるくらい上達していました。七年生では多くのコンサートがありました。その中でも一番心に残ったのは卒業式での演奏でした。卒業式のコンサートは人数が限られてたので、ほとんどのメンバーは八年生でした。七年生はほんの少ししかメンバーに選ばれませんでした。そんな中、私は選ばれて、卒業式のコンサートに出る事が出来たので、その時、私は「今までの努力の成果だ」と思いました。私は八年生になってまだまだトロンボーンがもっと上手くなるように努力をしたいと思います。

20×20

愛の力

LI校　中等部一年一組
荒木　晴奈子

私はこの夏日本に一時帰国しました。四年ぶりに親戚の人達に会えて、すごく嬉しかったです。一緒にお墓参りに行ったり、旅行に行ったり、私の好きなものや人と触れ、楽しいひとときを過ごせました。

ニューヨークに帰ってきて私は気づいたことがあります。それは、愛するということは人間にとって本当に大切なことだということです。友達、家族、先生、誰でも良いのです。人を愛することができれば自分も愛される、嬉しいことが増える、ポジティブな気持ちになれます。

私の好きなハリーポッターの中でもハリーの母がハリーを心の底から愛していたからハリーは生き残ることが出来ました。逆に愛することを理解できない悪物のボルデモートは、ハリーの「愛」というパワーを知らず滅

びました。それは実際の世界でも同じだと思います。犯罪を犯す人は愛されていないから愛することができない。愛したり、愛されるというのは自分や他人を悪から守ることでもあるのです。

私は今、愛してる人がたくさんいます。厳しいけど優しいお母さん、嬉しいご褒美をくれるお父さん、可愛い妹といとこたち、私の親戚の人達、一緒にいて楽しい友達、みんながいるから私はすごく心強いです。愛するというのはそんなに簡単ではありません。でも人を愛することができれば心が安定する人が増え、世界が平和になります。そうすればもっと笑顔が増えて、自分が愛する人も笑顔になります。そうやって繋がって行くのです。私も大事な人が笑っていると嬉しいです。一緒に気持ちを分かち合える人がいて私はこんなに幸せなことはありません。私は世界中の人にこういう気持ちになって欲しいです。この世界が愛であふれている世界になったら嬉

しいです。

私の自立

LI校　初等部六年一組
鹿島　花

昨年のクリスマスに、両親が私に携帯電話を買ってくれました。私はホームスクールをしているので、いろいろな場所で授業を受けています。そのため、両親はすべての授業に私を連れて行かなければなりません。もともと私は携帯電話を欲しがっていたので、電車を一人で乗れるようになるという条件を付けて両親は携帯電話を買ってくれました。

携帯電話を買ってもらったのはとてもありがたかったのですが、一人で電車に乗るのはちょっと不安でした。そこで、まずは母と一緒に通って、路線に慣れるのを待ち、慣れてきたら、いくつかの授業に一人で電車で通うようになりました。初めて一人で電車に乗ったときは、とてもスムーズでした。たった二駅でしたが、一人で乗るともっと時間が長く感じました。電車を降りて、目的地に着くと、

自分の中でとても達成感がありました。自分の中に小さな新しい感覚、自由が生まれたのです。それで携帯電話を使って、両親に無事到着したことを知らせることもできました。

それからは、もっと遠いところまで行けるようになりました。乗り換えもあるので、少し大変でしたが、少しずつ慣れてきました。道に迷ったり、危険な目にあったりしたときに、いつでも親に電話できるように携帯電話を持っていることはとても役に立ちました。いつしか私は、一人で電車に乗るのが好きになっていました。目的地に着くと、いつも達成感や安心感があるのが好きでした。一人で乗っていると、いつも大人になったような気がします。

また、一人で電車に乗れるようになったことで、チャンスが広がったと感じています。親に付き添われることもないので、今まで以上にどこかに行く機会が増えました。親が空いているかどうか確認する必要もなく、行き

たいところがあれば、親の承認さえあればいいのです。

一人で電車に乗れることは、年齢を重ねるにつれ、大きな助けとなると思います。これを通して私はもっと自立できるようになったと感じます。私はこれは重要な習性で、特に将来、自分で大きな決断をしなければならなくなったときに役立つと思います。また、一人で電車に乗っているときの自由な感じも好きです。新しく得た自立心を活かして、一人でおつかいを済ませたり、親の手を焼かずに友人と計画を立てたりできるようになりたいです。

踊ると嫌な事が忘れられる

LI校 初等部 五年一組 小谷くるみ

私は、友達のそばにいる時すごくうきうきした気持ちが湧いてきます。自分からどんどん話の内容が浮かび上がってきます。友達の話も聞くので話題が無くならなくて毎日楽しいです。

学校で席替えをする時には、友達の横に座りたい事しか考えないです。自分がどの席か決まるまで、どきどきする気持ちが止まりません。

友達の笑っている顔を見る事によって私も良い気持ちになります。

友達の事をすごく大切に思うから、友達からさけられた時はとても悲しい気持ちになりました。

私は五年生の時にクラスで仲の良い友達にいじめられていました。その子は私の事を他の友達にこそこそ話たり、私を無視したりす

る事が多くなりました。それを嫌だと友達に言いたくて、先生にみんなと話せる時間がほしいと聞きました。そして私はみんなの意見を聞いたり自分の意見を言って解決しました。

ところが明日になると、その子からの態度は何も変わっていない事に気がつきました。それが五年生の間続きました。

そのつらく苦しい気持ちはバレエを踊ることで忘れられました。

バレエを踊る時には自分を出すので、その時にもやもやした気持ちも一緒に出していました。

バレエだけに限らず、踊りは私を前向きにしてくれます。

ポケモンカフェ

L工校初等部三年二組
あら木　美夏子

わたしは、日本でポケモンカフェに行きました。ポケモンセンターの近くにありました。お店に入った時カフェの店いんさんがとてもやさしくて、かわいい洋服を着ていました。ピカチュと同じ服を着ていてとてもかわいくて、わたしも着たくなりました。いろいろたくさんあってカフェも、ポケモンのせかいに入っているようなかんじでした。お店の人も楽しんでほしいと思っているのが伝きました。

わたしは、お父さんと二人だけで行きました。アイパットでちゅうもんをしました。わたしは、小学生むけのごはんプレートをちゅうもんし、お父さんは、イーブイのプレートをちゅうもんしました。ごはんがとてもかわいくて食べるのがもったいないくらいでした。わたしは、アメリカに住んでいるのでめったにこうゆうフェは、ないので、こうふんであまり食べれませんでした。わたしは、ポケモンが大すきなのでポケモンカフェに行くのもゆめの上のようでした。飲み物は、すごくいっぱいあって、決めるのがたいへんでした。その中でぶらんだのがピバニーのクリーム

16×16

リーダにしました。「お父さんのもんでいいよ。」とお父さんが言ってくれたのでふりふりみるくにしました。チョコベリーがありました。しは、ベリーにきめました。ふりふりみるくは、わたしがふって作りました。みるくはビンは、ほんとうに、アニメに出てくるビンでした。ふりふりするのが楽しかったです。また、ふんで作ったというのがうれしかったです。ピカチュもきてくれました。

わたしもこんなに人を楽させるカフェを大人になったら作りたいなと思いました。わたしは、人をずっとくせるしごとを大人になったりし

たいです。人をしあわせにすると、じぶんもしあわせにした人ともうれしくなると思います。

16×16

「青いさかな」

１Ｉ校一ねん二くみ

たまき　まや

ことしのなつ休みに、に
ほんのおじいちゃんとおば
あちゃんにあいにいきまし
た。

ちかくにはきれいなうみ
があります。うみのいろは
青、水いろ、みどりいろを
しています。おじいちゃん
のこどものときは、もっと

うみがきれいで、さかなもいっぱいいました。

すなはまにしんで白くなったさんごを見て、かわいそうだとおもいました。

ままとうみでおよいでいたとき、アクアブルーいろで、小さくきれいなさかなをいっぱい見ました。うごきがはやくて、とてもきれいでした。

みんなでうみをきれいに

して、さかなもさんごもいっぱいいるうみにしたいです。

12×12

なつやすみのおもいで

レエ校しょとうぶ

一ねんーくみ

トング　アビー

わたしは、なつやすみにとうきょうディズニーランドにいきました。いろんなのりものにのったけれど、スプラッシュマウンテンがとくにたのしかったです。どうしてかというと、小さいときからずっとのりたく

てもしんちょうがたりなくてのれなかったのが、ことしはやっとのれたからです。

スプラッシュマウンテンは、はじめはうさぎたちがうたっていてかわいいとおもいました。そのあと、くらくなって上にのぼりはじめたので、わたしはドキドキしました。そして、バシャンと下へおちました。すこしおどろいたけれど、た

のしかったです。

つぎにディズニーランドにいくときには、よるの、イルミネーションが見えるスプラッシュマウンテンにのりたいです。